

第2学年 国語科学習指導案

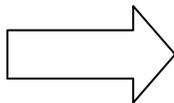
日時 平成26年10月6日(月) 6校時
児童 男子15名 女子14名 計29名
授業者 教諭 西前 弘幸

- 1 単元名 大すきなばめんの音読げきをしよう
主教材 「お手紙」(光村図書 2年下)
補助教材 「ふたりはいつも」等
アーノルド・ローベル作の図書

2 単元を貫く言語活動と付けたい力の説明

【付けたい力】

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する力 (Cア)
- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力 (Cウ)



【単元を貫く言語活動】

- ・登場人物の行動や会話から、場面の様子や気持ちを想像し、工夫して音読劇をする。
- ・音読劇では、場面の様子や登場人物の気持ちを「声」(音読)と「簡単な体の動き」で表す。

【その特徴】

- ・音読劇をするために、子どもたちが、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。
- ・シリーズの本から、気に入った作品や場面を選んで音読劇に取り組むため、目的をもって意欲的に並行読書することができる。

3 単元について

(1)教材について

小学校学習指導要領における第2学年「C読むこと」の領域目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。また、指導内容は「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」である。

本単元は、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読んだり、声に出して読んだりして、お話を楽しむことをねらいとしている。本教材「お手紙」は、一度もお手紙をもらったことがないことを悲しむがまくんと、がまくんを元気づけようと手紙を書いたかえるくんの心のふれあいを描いた作品である。ちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、心優しいかえるくんのほのぼのとした友情を描いた心温まる物語である。親しみを感じさせる登場人物や挿絵、ほのぼのとした会話のやりとりは、子どもたちにとって魅力的であり、二人の心のふれあいを楽しく想像しながら読むことのできる教材である。

本単元の学習を通して、大好きな場面の音読劇をするという目的に向かって、必要感をもって意欲的に登場人物の行動と会話から、気持ちを想像することで目標にせまっていきたい。

(2)児童について

児童はこれまでに、2年上「ふきのとう」で役に分かれ、声の大きさや速さを工夫して音読することを学習してきた。簡単な動作化も行い想像して読む楽しさを味わうことができた。また、2年上「スイミー」では、行動や会話から想像を広げながら読み、感想の手紙を書く学習をしている。この学習ではレオ＝レオニの他の作品を読み、登場人物にお手紙を書く活動を通して読書に親しむ児童が多くなった。また、音読劇にかかわる前学年の言語活動としては、1年下「くじらぐも」の学習において音読に合わせて一緒に動く活動をしている。

これらの学習を通して、場面毎の登場人物とその行動や会話に着目して、様子を想像することができる児童が増えてきた。また、物語の世界に浸り、叙述をもとに楽しみながら場面を想像し、自分の言葉で表現できるようになった児童もいる。しかし、場面の様子や登場人物の気持ちを想像する力に個人差が大きく、叙述に立ち返らず勝手な解釈で想像したり、内容が正しく理解できない児童もいる。さらに、想像した登場人物の気持ちを声の大きさや速さなどを工夫して音読できる児童は少ない。

以上のことから、叙述にもとづきながら、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方や簡単な動きを工夫して音読劇をさせたい。

(3)指導にあたって

本単元では、「大好きな場面の音読劇をする」ということをゴールとして設定する。

「みとおす」段階では、まず、音読劇の内容を知らせるために、実際の音読劇の映像を示す。そして、「お手紙」の作者であるアーノルド・ローベルの「がまくんとかえるくんシリーズ」の本の中から、1つの場面の読み聞かせをしシリーズ本に興味を持たせ、シリーズ本の中から「大好きな場面の音読劇をしよう」という単元の学習課題を設定する。次に、教材文「お手紙」を読み、挿絵をもとに登場人物や物語のあらすじを捉え、場面分けをして学習計画を立てる。最後には、1年生の前で音読劇の発表するというゴールを示し意欲を持たせたい。

「ふかめる」段階では、「お手紙」の場面の様子や会話文をもとに、場面の様子や登場人物の気持ちを会話文をもとに想像させ、それをもとに音読劇をする。まず、「お手紙」の5つの場面毎にその場面の様子や会話文をもとに、登場人物の気持ちを想像する。次に、「お手紙」の5つの場面の中から、自分の大好きな場面を選び、前時までに場面毎に捉えた場面の様子や登場人物の気持ちをもとに音読劇の工夫をする。最後に、グループ毎に、工夫した内容をもとに音読劇発表会をする。音読劇に取り組む際には、どうしてそのように音読や動きを工夫したのか根拠を明確にしていきたい。

「いかす」段階では、並行読書してきたシリーズ本を再読し、グループに分かれて、音読したい作品や場面を選び音読劇を行う。その際、「お手紙」の各場面で行ってきた、音読の仕方や簡単な動きなどの工夫を発表に生かしたい。さらに、グループで音読劇発表会をし交流することで、よいところ、取り入れたいところを見つける活動も行っていきたい。以上のような活動を通して、本単元の目標にせまりたい。

並行読書については、アーノルド・ローベルの「がまくんとかえるくんシリーズ」四冊は、全員必読とし、音読発表会で聞いている人が楽しめるようにしたい。

4 単元の指導目標及び評価規準

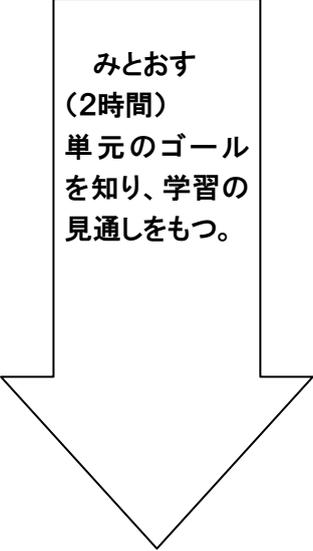
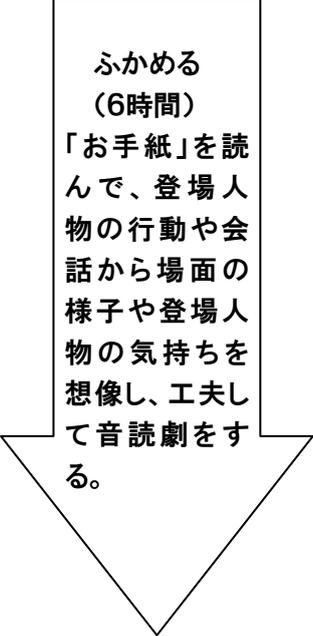
(1) 単元の指導目標

- 物語に書かれている世界に浸りながら、大好きな作品や場面を見つけ、音読劇をしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 言葉の響きや声の出し方を工夫して音読劇をすることができる。
(Cア)
- ◎シリーズの物語を選んで読んだり、登場人物の行動や会話に着目し、場面の様子について想像を広げながら読むことができる。
(Cウ)
- 文中の主語と述語の関係に注目して読むことができる。
(伝国イ(カ))

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 物語の世界に浸りながら、大好きな作品や場面を見つけ、音読劇をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、声の出し方を工夫して音読劇をしている。 (Cア) 登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像を広げながら読んでいる。 (Cウ) 	<ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語と述語との関係に注目して読んでいる。 (イ (カ))

5 単元の指導計画 (12時間扱い)

学習過程	主な学習活動	教師の支援	評価規準
<p>みとおす (2時間) 単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。</p> 	<p>①アーノルド・ローベルの物語の音読劇の映像見たりすることで、「好きな場面の音読劇をしよう」という単元のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>大すきなばめんの音読げきをしよう。</p> </div> <p>②「お手紙」を読み、登場人物や物語のあらすじを知り、学習計画を立てる。</p>	<p>○お手紙と同じ作者の音読劇の映像を見ることや、さわやかタイムに1年生に音読劇の発表を見せるということから、学習に対する意欲をもつことができるようにする。</p> <p>○挿絵をもとに、お手紙の登場人物やあらすじを捉えることで、場面を5つに分けることができるようにする。</p>	<p>★映像や1年生に発表するということから、音読劇に興味をもっている。 (関・意・態)</p> <p>★あらすじをもとに場面を分け、音読劇をするために見通しをもち学習計画を立てている。 (関・意・態)</p>
<p>ふかめる (6時間) 「お手紙」を読んで、登場人物の行動や会話から場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、工夫して音読劇をする。</p> 	<p>③行動や会話文から、1～3の場面の登場人物の気持ちを想像する。</p> <p>④行動や会話文から、4・5の場面の登場人物の気持ちを想像する。</p> <p>⑤好きな場面を選び、音読劇発表会に向けて、台本に音読の仕方や動きを書き込む。</p>	<p>○行動や会話文に着目させることで、登場人物の気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>○行動や会話文に着目させることで、登場人物の気持ちを想像することができるようにする。</p> <p>○好きな場面を選ばせ、場面の様子や2人の気持ちをもとに、台本を作ることができるようにする。</p>	<p>★行動や会話文から、登場人物の気持ちを読み取っている。 (Cウ)</p> <p>★行動や会話文から、登場人物の気持ちを読み取っている。 (Cウ)</p> <p>★登場人物の行動や会話から気持ちを捉え、音読の仕方や動きについて考えている。 (Cア、ウ)</p>

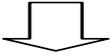
	<p>⑥グループで、工夫して音読劇の台本を作る。 (本時)</p>	<p>○場面の様子や登場人物の気持ちから、音読の仕方を工夫できるようにする。</p>	<p>★場面の様子や登場人物の気持ちから、音読の仕方を工夫している。(Cア、ウ)</p>
	<p>⑦音読劇のリハーサルをして、音読の仕方や動きについてアドバイスし合う。</p>	<p>○場面の様子や登場人物の気持ちから、音読の仕方や動きが工夫できるようにする。</p>	<p>★場面の様子や登場人物の気持ちから、音読の仕方や動きを工夫している。(Cア、ウ)</p>
	<p>⑧音読劇発表会をする。</p>	<p>○音読や動きを工夫することで、場面の様子が伝わるような音読劇ができるようにする。</p>	<p>★場面の様子が伝わるように、音読や動きを工夫することで、楽しく音読劇をしている。(Cア、ウ)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content; margin: auto;"> <p>いかす (4時間) 並行読書してきたシリーズ本の中から、好きな場面を選び、行動や会話、挿絵などから気持ちを想像し、音読劇をする。</p> </div>	<p>⑨並行読書してきたシリーズ本を再読し、音読したい場面を選び、音読劇のための台本づくりをする。</p>	<p>○好きな場面を選ぶことで、音読劇の台本作りを意欲的にできるようにする。</p>	<p>★好きな場面を選んだことで、意欲的に台本を作っている。(関・意・態)</p>
	<p>⑩グループで、台本を作り、音読や動きの工夫をする。</p>	<p>○場面の様子や登場人物の会話に注目することで、音読の仕方や動きが工夫できるようにする。</p>	<p>★場面の様子や登場人物の気持ちから、音読や動きの工夫をしている。(Cア、ウ)</p>
	<p>⑪学級全体でシリーズ本の音読劇発表会をする。</p>	<p>○音読や動きを工夫することで、場面の様子が伝わるような音読劇ができるようにする。</p>	<p>★場面の様子が伝わるように、音読や動きを工夫して音読劇をしている。(Cア、ウ)</p>
	<p>⑫感想を交流して、単元のふり返りをする。</p>	<p>○場面の様子が伝わるような音読劇になっていたかを、登場人物の行動や会話をもとに振り返ることができるようにする。 ○学習を振り返ることで、自分が「好きな場面の音読劇をしよう」の言語活動で、どんな学びがあったかを考えることができるようにする。</p>	<p>★場面の様子が伝わるような音読劇になっていたかを、登場人物の行動や会話をもとに振り返っている。(Cア、ウ) ★今までの学習から、場面の様子や登場人物の気持ちをもとに、音読劇の工夫をしたことを書いている。(関・意・態)</p>

6 本時の指導

(1)目標

登場人物の行動や会話に注目しながら、グループで音読の仕方を工夫することができる。

(2)展開

過程	学習活動と主発問	時間	○教師の支援 ★評価
みとおす	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大すきなばめんのようすがつたわるように、音読のし方をくふうしよう。</p> </div>	3	<p>○友だちの発言を聞くことで、好きな場面をグループで音読劇をするために、自分の台本を作ったことを想起できるようにする。</p> <p>○めあてを読むことで、一人読みで考えた音読の工夫をもとに、グループで音読の仕方を話し合うことを確認できるようにする。</p>
ふかめる	<p>3 それぞれの場面を音読する。 (一人読み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間に自分で音読の仕方を工夫したところを確認しながら、自分の選んだ場面を読みましょう。 <p>4 グループで考える。(グループ読み)</p> <p>①グループで工夫するところを話し合う。 ◆グループで、音読の工夫をするとき、何をもとにしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、自分の音読の工夫を発表します。次に、グループで相談して、1つの台本にします。 <p>②グループで音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、自分の役のところを音読しましょう。次に、グループで場面を通して音読しましょう。 <p>5 全体で交流する。(クラス読み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのグループに発表してもらいます。 <p>◆場面の様子が伝わるように、音読を工夫しているなど思ったのは、どこの部分ですか。</p>	<p>5</p> <p>12</p> <p>10</p> <p>10</p>	<p>○自分の選んだ場面を一人で全部読むことで、工夫の内容を確認できるようにする。</p> <p>○場面の様子や登場人物の気持ちに合っているかを工夫の根拠と考えることで、音読の仕方を話し合うことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《(2)自分の考えを深める活動の工夫》</p> <p>グループ読み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えたり、友だちの考えを取り入れたりすることを目的とする。 ・各自の考えをもとに、場面の様子や登場人物の気持ちにあった音読の工夫を台本にまとめさせる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>クラス読み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の気持ちをもとに、どのように音読が工夫されたかを確認するために、数グループに音読劇をさせたい。 ・友だちの発表から、工夫して音読していたところを、根拠も明確にしながら話し合わせたい。 </div> <p>★場面の様子や登場人物の気持ちから、音読の仕方を工夫することができたか。</p>

